

報告・協議 3

平成 30 年度広島県学力調査報告書について

このことについて、別紙のとおり報告します。

平成 31 年 1 月 31 日

広島県教育委員会教育長 平 川 理 恵

平成30年度 広島県

# 学力調査報告書

- 全国学力・学習状況調査
- 「基礎・基本」定着状況調査  
児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査

概要版

# 目 次

## ◆ 分析結果の要約

---

## ◆ 第1章 平成30年度 全国学力・学習状況調査

---

### 【分析1】調査の概要及び調査結果の分析

- ① 調査の概要
- ② 教科調査の結果

### 【分析2】質問紙調査の回答状況と教科調査の結果との関連

- ① 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に関する児童生徒質問紙調査の回答状況と教科調査の結果との関連・・・・・・・・概要2P△
- ② 生活習慣・学習習慣に関する児童生徒質問紙調査の回答状況と教科調査の結果との関連
- ③ 読書に関する児童生徒質問紙調査の回答状況と教科調査の結果との関連

資 料

## ◆ 第2章 平成30年度「基礎・基本」定着状況調査 質問紙調査

---

### 【分析1】調査の概要及び調査結果の分析

- ① 調査の概要
- ② 児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査の結果の経年変化

### 【分析2】質問紙調査の回答状況

- ① 「課題発見・解決学習」に関する児童生徒質問紙調査の回答状況と学校質問紙調査の回答状況との関連・・・・・・・・概要3P△
- ② 児童生徒質問紙調査における自己実現力・自己効力感に関する質問事項の回答状況とその他の質問事項の回答状況との関連
- ③ 学校質問紙調査の回答状況と児童生徒質問紙調査の回答状況との関連

資 料

## ◆ IPPO～校内研修支援プログラム～

---

- IPPO～校内研修支援プログラムの活用について・・・・・・・・概要6P△
- (全)【1】学力に大きな課題がある児童(生徒)(正答率40%未満など)への支援に向けて  
・・・・・・・・概要7P△
- (全)【2】正答率下位3問の状況を踏まえた指導の改善に向けて
- (全)【3】S-P表を活用した授業改善に向けて
- (基)【4】児童(生徒)の生活と学習に関する意識、実態を踏まえた指導改善に向けて
- (基)【5】「課題発見・解決学習」の充実に向けて・・・・・・・・概要8P△

## 分析結果の要約

### ◆全国学力・学習状況調査◆

#### 【分析1】調査の概要及び調査結果の分析

- 小学校は、全ての教科において、平均正答率が全国平均を上回っている。
- 中学校は、数学Bにおいて、全国平均を下回っている（その他は同程度）。

#### 【分析2】質問紙調査の回答状況と教科調査の結果との関連

- ① 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に関する児童生徒質問紙調査の回答状況と教科調査の結果との関連
  - 中学校は、全ての教科において、主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に関する質問事項における回答状況別の教科調査の平均正答率のうち、「当てはまる」と回答した児童生徒と「当てはまらない」と回答した児童生徒の平均正答率の差が、10ポイント以上ある。
- ② 生活習慣・学習習慣に関する児童生徒質問紙調査の回答状況と教科調査の結果との関連
  - 小学校、中学校共に、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」、「家で、学校の宿題をしていますか」の質問事項で、「している」と回答した児童生徒が、全ての教科において平均正答率が最も高い。
  - 小学校国語B、算数B共に、「家で、学校の宿題をしていますか」の質問項目で、「している」と回答した児童と、「全く」と回答した児童の平均正答率の差が30ポイント以上あり、差が大きい。
- ③ 読書に関する児童生徒質問紙調査の回答状況と教科調査の結果との関連
  - 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」の質問事項では、小学校は「1時間以上2時間より少ない」と回答した児童が、全ての教科において平均正答率が最も高い。中学校は「10分以上、30分より少ない」と回答した生徒が、全ての教科において平均正答率が最も高い。

### ◆「基礎・基本」定着状況調査 質問紙調査◆

#### 【分析1】調査の概要及び調査結果の分析

- 中学校においては、生徒質問紙「教科の学習に関する調査」及び学校質問紙「教科の指導に関する調査」共に、平成14年度と平成30年度の肯定的回答の差が10ポイント以上である。

#### 【分析2】質問紙調査の回答状況

- ① 「課題発見・解決学習」に関する児童生徒質問紙調査の回答状況と学校質問紙調査の回答状況との関連
  - 「課題発見・解決学習」に関する全ての質問事項において、学校が、指導の工夫について「よく当てはまる」、「やや当てはまる」と肯定的に回答している割合よりも、児童生徒が肯定的に回答している割合は低い。
- ② 児童生徒質問紙調査における自己実現力・自己効力感に関する質問事項の回答状況とその他の質問事項の回答状況との関連
  - 児童生徒質問紙調査の自己実現力・自己効力感に関する全ての質問事項において、「よく当てはまる」と回答している児童生徒は、「全く当てはまらない」と回答している児童生徒に比べて、学習や社会への関心等に関する質問事項の肯定的回答の割合が高い傾向が見られる。特に、小学校、中学校共に(11)「将来、仕事や生活の中で役に立つと思うから勉強しています。」の肯定的回答の割合の差が大きい傾向がみられる。
  - (44)「努力すれば、自分もたいていのことはできると思います。」に「よく当てはまる」と回答している児童生徒は、「全く当てはまらない」と回答している児童生徒に比べて、肯定的回答の割合の差が30ポイント以上ある項目が多い。
- ③ 学校質問紙調査の回答状況と児童生徒質問紙調査の回答状況との関連
  - 小学校では、全ての学校の算数において、具体的なめあてを示したり、解決の見通しをもたせたりするなどの指導の工夫を行っており、「算数の授業はよく分かります。」に肯定的に回答している児童の割合が80%を超えている。
  - 理科では、「理科の勉強は好きです。」と「理科の授業はよく分かります。」の2つの質問事項に肯定的に回答している児童生徒の割合の差が大きい学校質問紙調査の質問事項のうち、小学校及び中学校共に「(7)観察や実験を行うときは、その目的は何かを意識させる指導を行った。」の項目が共通している。

## 【分析2】質問紙調査の回答状況と教科調査の結果との関連

### ① 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に関する児童生徒質問紙調査の回答状況と教科調査の結果との関連

小学校及び中学校の学習指導要領（平成 29 年 3 月）では、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して資質・能力を育む効果的な指導ができるようにすること」と示されている。

ここでは、全国学力・学習状況調査、児童生徒質問紙調査の主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に関する質問事項における回答状況別の教科調査の平均正答率のうち、「当てはまる」と回答した児童生徒と「当てはまらない」と回答した児童生徒の平均正答率の差が、5ポイント以上あるものは「○」、10ポイント以上あるものは「★」で示す。

#### 《分析の概要》

- 中学校は、全ての教科において、主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に関する質問事項における回答状況別の教科調査の平均正答率のうち、「当てはまる」と回答した児童生徒と「当てはまらない」と回答した児童生徒の平均正答率の差が、10ポイント以上ある。

※設問番号を2つ示している質問事項は、左が児童質問紙調査の設問番号、右が生徒質問紙調査の設問番号を示している。

質問事項	小学校					中学校				
	国A	国B	算A	算B	理	国A	国B	数A	数B	理
(55) (52) 5年生まで（1, 2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	○	★	○	★	○	★	★	★	★	★
(56) (53) 5年生まで（1, 2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	★	★	★	★	○	★	★	★	★	★
(57) (54) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	○	○		○		★	★	★	★	★

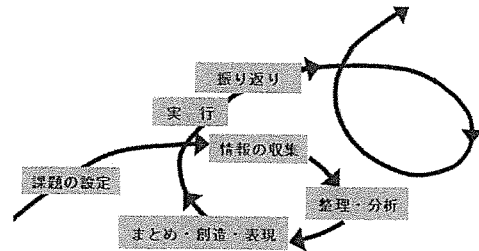
## 【分析2】質問紙調査の回答状況

### ① 「課題発見・解決学習」に関する児童生徒質問紙調査の回答状況と学校質問紙調査の回答状況との関連

児童生徒の主体的な学びを促す教育活動の一つとして、「課題発見・解決学習」が挙げられる。ここでは、児童生徒質問紙調査の「課題発見・解決学習」に関する質問事項に「よく当てはまる」、「やや当てはまる」と肯定的に回答した児童生徒の割合と、それらの質問事項に対応した学校質問紙調査の質問事項に「よく当てはまる」、「やや当てはまる」と肯定的に回答した学校の割合を示す。

#### 「課題発見・解決学習」とは

児童生徒が自ら課題を見付け、課題の解決に向けて、探究的な活動をしていく学習。その過程においては、「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・創造・表現」、「実行」、「振り返り」などの活動が考えられる。



※「H30-H29」はH30とH29の差の差を示している。

※児童生徒の肯定的な回答と学校の肯定的な回答の差が20ポイント以上あるものは網掛けで示している。

肯定的な回答の割合(%)

質問事項 (上：児童生徒 下：学校)	H30				H29				H30-H29	
	小学校 (上：児童 下：学校)	差	中学校 (上：生徒 下：学校)	差	小学校 (上：児童 下：学校)	差	中学校 (上：生徒 下：学校)	差	小学校 差	中学校 差
課題の設定	(13) 授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思います。	81.5		70.4	81.2		68.4			
	(1) ①児童(生徒)が、課題設定の場において、課題を自ら見付けられるような指導を工夫した。	96.6	-15.1	94.6	95.8	-14.6	94.2	-25.8	-0.5	1.6
	(14) 授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないかと予想しています。	85.5		75.9	85.1		74.3			
	(1) ②児童(生徒)が、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないかと予想するような指導を工夫した。	98.7	-13.2	98.3	99.2	-14.1	96.7	-22.4	0.9	0.0
情報の収集	(15) 授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。	52.2		40.6	51.8		39.9			
	(1) ③児童(生徒)が、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりするような指導を工夫した。	90.6	-38.4	81.5	88.9	-37.1	85.9	-43.0	-1.3	5.1
	(16) 授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。	60.2		48.4	59.9		48.0			
	(1) ④児童(生徒)が、課題解決に必要な情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えるような指導を工夫した。	90.9	-30.7	78.7	88.8	-23.9	83.8	-35.8	-1.8	5.5
整理・分析	(17) 授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	71.6		52.4	73.7		53.1			
	(1) ⑤児童(生徒)が、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめて整理するような指導を工夫した。	94.3	-22.7	87.0	94.1	-20.4	89.6	-36.5	-2.3	1.9
	(18) 授業では、情報を、比べたり(比較)、仲間分けしたり(分類)、関係を見付けたり(関係付け)して、何が分かるのかを考えています。	74.1		65.5	75.5		66.0			
	(1) ⑥児童(生徒)が、情報を、比べたり、分類したり、関係付けたりして分析するような指導を工夫した。	93.2	-19.1	92.9	90.7	-15.2	93.8	-27.8	-3.9	0.4

	質問事項 (上：児童生徒 下：学校)	H30				H29				H30-H29	
		小学校 (上：児童 下：学校)	差	中学校 (上：生徒 下：学校)	差	小学校 (上：児童 下：学校)	差	中学校 (上：生徒 下：学校)	差	小学校 差	中学校 差
まとめ・ 創造・ 表現	(19) 授業では、自分の考えを積極的に伝えています。	65.5		59.4		65.8		58.2			
	(1) ㉞児童(生徒)が、自分の考えを積極的に伝えるような指導を工夫した。	99.8	-34.3	99.2	-39.8	99.6	-33.8	98.4	-10.2	-0.5	0.4
	(20) 授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。	68.4		60.7		67.9		59.4			
	(1) ㉞児童(生徒)が、自分の考えとその理由を明確にして、相手に分かりやすく伝えるために発表を工夫するような指導をした。	98.1	-29.7	97.5	-36.8	98.8	-30.9	97.5	-38.1	1.2	1.3
実行	(21) 授業では、考えたり提案したりしたことについて、実際に取り組んでいます。	71.4		66.5		72.5		66.2			
	(1) ㉞児童(生徒)が、考えたり提案したりしたことについて、実際に取り組むような指導を工夫した。	92.0	-20.6	82.4	-15.9	88.2	-15.7	85.0	-18.8	-4.9	2.9
振り返り	(22) 学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」を考えています。	70.3		67.3		71.4		66.1			
	(1) ㉞児童(生徒)が、振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」を考えるような指導を工夫した。	86.7	-16.4	88.7	-21.4	86.7	-15.3	91.7	-25.6	-1.1	4.2
	(23) 学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。	74.8		60.8		75.4		59.0			
	(1) ㉞児童(生徒)が、振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えるような指導を工夫した。	92.2	-17.4	79.5	-18.7	89.5	-14.1	77.9	-18.9	-3.3	0.2
その他	(24) ふだんの生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を使っています。	81.9		74.3		81.3		72.4			
	(1) ㉞児童(生徒)が、日常生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を活用するような指導を工夫した。	95.7	-13.8	94.1	-19.8	93.9	-12.6	92.5	-20.1	-1.2	0.3
	(25) 授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	80.1		80.2		79.9		77.5			
	(1) ㉞児童(生徒)が、友達と話し合うなどして、考えを深めたり、広げたりするような指導を工夫した。	99.1	-19.0	99.6	-19.4	97.9	-18.0	97.5	-20.0	-1.0	0.6
	(26) 授業では、実際にものを使ってやってみたり、地域や自然の中で学習したりするなどの体験活動をしています。	69.4		58.3		70.2		56.3			
	(1) ㉞児童(生徒)が、実際にものを使ってやってみたり、地域や自然の中で学習したりするなどの体験活動を取り入れた。	93.6	-24.2	82.9	-24.6	95.7	-25.5	84.2	-27.9	1.3	3.3
総合	(27) 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。	69.3		67.7		69.6		67.5			
	(1) ㉞「総合的な学習の時間」では、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導を工夫した。	94.1	-24.8	88.3	-20.6	90.9	-21.3	90.5	-23.0	-3.5	2.4

《分析の概要》

- 「課題発見・解決学習」に関する全ての質問事項において、学校が、指導の工夫について「よく当てはまる」、「やや当てはまる」と肯定的に回答している割合よりも、児童生徒が肯定的に回答している割合は低い。

# I P P O

～校内研修支援プログラム～



## IPPPO ～校内研修支援プログラムの活用について～



### ■ 校内研修支援プログラム「IPPPO (いっぽ)」とは

全国学力・学習状況調査をはじめとした各種調査の目的の一つは、各学校が、自校の調査結果を活用し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることです。また、各学校においては、カリキュラム・マネジメントの充実に向け、各種調査結果やデータ等に基づき、児童の姿や学校及び地域の現状を的確に把握した上で、取組を進めることが必要です。

「IPPPO (いっぽ)」は、学力調査等の結果を活用して指導改善に取り組む学校の、校内研修を支援するためのプログラムです。「IPPPO (いっぽ)」は、全国学力・学習状況調査の調査結果CD-ROMを読み込むことにより、議論のテーマごとに関連する自校のデータが表示された校内研修用のシートを作成します。

ちなみに、「IPPPO」という名称の表記は、下に示すように、四つの願いを想起させる四つの英単語の頭文字に由来しています。また、「いっぽ」という読み方は「一歩」をイメージしたものであり、学校全体で踏み出す指導改善の「第一歩」に役立ててほしいという思いからです。

各学校において、たとえば、この「IPPPO (いっぽ)」等を活用し、自校の児童生徒の実態や指導の状況を踏まえ、活発な議論を行い、組織的・計画的な指導改善を進めていただきたいと思います。

### 校内研修支援プログラム「IPPPO (いっぽ)」に込めた願い

- I** ndividual 児童生徒一人一人の顔を思い浮かべ、個別の状況を把握し、丁寧な分析を！
- P** urposeful 「主体的な学び」の実現に向けた授業改善の手立てを明確にするために！
- P** ositive 児童生徒の「分かった！」「できた！」という笑顔の実現に向けて前向きに！
- O** rganized 調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で組織的・計画的な取組を！

### 文部科学省 平成30年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領

#### 1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 文部科学省 小学校(中学校)学習指導要領(平成29年3月告示)

#### 第1章 総則 第1 小学校(中学校)教育の基本と教育課程の役割

- 4 各学校においては、児童(生徒)や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと(以下「カリキュラム・マネジメント」という。)に努めるものとする。

### 文部科学省 小学校(中学校)学習指導要領解説 総則編

#### 第3章 第1節 4 カリキュラム・マネジメントの充実

##### ア 児童や学校、地域の実態を適切に把握すること

教育課程は、第1章総則第1の1が示すとおり「児童(生徒)の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して」編成されることが必要である。各学校においては、各種調査結果やデータ等に基づき、児童の姿や学校及び地域の現状を定期的に把握したり、保護者や地域住民の意向等を的確に把握した上で、学校の教育目標など教育課程の編成の基本となる事項を定めていくことが求められる。

学力に大きな課題がある児童（正答率40%未満など）への支援に向けて（国語A）

自校の国語Aにおける学力に大きな課題がある児童（正答率40%未満など）の状況

自校の国語Aにおける学力に大きな課題がある児童（正答率40%未満など）の数	7人
該当する児童を確認しながら手立てを検討しましょう。	

国語Aにおける正答率と無解答率

問題番号	解説	正答率 (%)	無解答率 (%)	無解答者数 (人数)	無解答者率 (%)
1	図書館への行き方の説明として適切なものを選択する	92.5	75.5	0.1	0.0
2	物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する	75.8	45.5	0.2	0.0
3	【オムレツを作ったあとの感想】を語らえ、【オムレツのページ】をどのように読めばよいが、適切なものを選択する	78.0	14.4	0.2	0.0
4	『くまの物語』を読んで心に染み込んだことを一文を取り出し、その理由を説明する	75.4	52.2	0.3	15.2
5	【春休みの出来事の一部】の中で、適切な一文を選択し、正しく書き直す	39.0	5.4	3.1	24.8
6	慣用句の意味を使い方として適切なものを選択する	92.4	79.8	1.2	5.9
7	【話を聞いている様子の一部】の【ア】に入る内容の組み合わせとして適切なものを選択する	80.4	30.7	2.1	5.8
8ア	文の中で漢字を使う（せい遠）	75.6	32.1	4.2	37.8
8イ	文の中で漢字を使う（せつ隙）	84.2	21.6	5.1	43.8
8ウ	文の中で漢字を使う（しょう霧）	83.7	31.9	5.4	31.9
8エ	文の中で漢字を使う（かん理）	68.0	62.4	1.5	13.4
8オ	文の中で漢字を使う（せつ極的）	54.1	11.5	6.4	62.8

まずは、この問題を全員で解いてみて、どのような力が求められているか確認しましょう。

STEP1

学力に大きな課題がある児童（正答率40%未満など）の、正答率が低い問題や、無解答率の高い問題を取り上げ、解いてみましょう。

STEP2

教科の内容の系統や解答類型を基に分析しましょう。  
自校の学力に大きな課題がある児童（正答率40%未満など）は、どのような学習のどの段階でつまんでいるのでしょうか。

ポイント

該当する児童一人一人について、教科学力調査や国語検定調査の結果に加え、日頃の学校生活の様子、家庭との関係で把握したなどを総合的に分析し、学習のつまづきの要因や改善を提案することが大切です。

議論しよう！

STEP3

学力に大きな課題がある児童（正答率40%未満など）に対して、つまづきの解消に向け、どのような手立て（指導の工夫・支援）を講じますか。

「課題発見・解決学習」の充実に向けて

本校の「課題発見・解決学習」に関する児童質問紙調査の回答状況

児童質問紙

	小学校 なぐさ	中学校 はなまる	高校 はまらぎ	大学 はまらぎ
(13) 授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思っています。	31.6	40.6	22.1	6.3
(14) 授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないかなど」予想しています。	20.7	28.9	42.1	5.3
(15) 授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取付をしたりしています。	18.7	47.4	35.6	12.0
(16) 授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法と必要な情報を集めることが出来るのかを考えています。	16.6	42.7	32.5	8.3
(17) 授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	22.4	37.6	29.1	10.7
(18) 授業では、情報を、比べたり(比較)、仲間分けしたり(分類)、関係を見付けたり(関係付け)して、何が分かるのかを考えています。	10.9	28.9	34.2	26.3
(19) 授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。	31.3	40.3	22.1	6.3
(20) 授業では、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。	22.4	37.6	29.1	10.7
(21) 授業では、考えたり提案したりしたことについて、実際に取り組みんでいます。	33.0	41.4	21.0	4.9
(22) 学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」を考えています。	34.2	21.6	23.7	10.5
(23) 学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べたいこと」、「もっと工夫したいこと」などを考えています。	11.2	30.7	27.1	7.3
(24) ふだんの生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を使っています。	27.1	42.6	27.0	7.5
(25) 授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	30.6	37.6	24.9	6.7
(26) 授業では、課題にものを使ったりやってみたり、地味や自然の中で学習したりするなどの体験活動をしています。	31.2	46.5	19.1	3.2
(27) 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。	32.1	39.3	23.4	5.3
	16.6	42.7	32.5	8.3
	33.3	37.0	22.9	6.7
	22.9	30.9	34.4	5.7
	40.0	34.8	19.5	5.7
	39.0	35.6	20.3	7.3
	40.7	30.2	14.6	3.5
	32.0	43.6	19.8	4.3
	48.2	33.9	6.0	3.9
	21.5	38.2	30.3	9.0
	33.6	35.6	23.3	7.3
	32.2	35.2	37.9	13.8
	33.4	35.9	23.8	6.9

0%

20%

40%

60%

80%

100%

STEP1

本校の児童の回答状況からどのようなことが捉えられるでしょうか。

ポイント

「全く当てはまらない」と回答した児童の状況を把握し、背景・要因を分析してみましょう。



議論しよう！

STEP2

「課題発見・解決学習」の学習過程の中で、本校において、より充実させる必要がある学習活動は何でしょうか。また、その学習活動をどのように工夫すれば、児童の学びは深まるでしょうか。

ポイント

児童質問紙調査と学校質問紙調査の回答状況の差に注目しましょう。



議論しよう！

STEP3

児童の「主体的な学び」を促すため、「課題発見・解決学習」の充実に向け、学校全体でどのようなことに取り組めますか。

ポイント

誰が、何を、いつまでに取組み、どのように確認するのか決めておくことが大切です。